

22. ラットにおけるシスプラチン腎障害時の ^{99m}Tc -DMSA 摂取率と
クレアチニンクリアランスの比較山田 雅文他... 907
23. レノグラムと腎ダイナミック CT の比較検討佐藤 伸夫他... 907
24. 頭頸部放射線治療患者における因子分析による唾液腺シンチグラフィ長谷川真理他... 908
25. 頭頸部腫瘍の ^{67}Ga , ^{99m}Tc - O_4 -subtraction scintigraphy吉田 祥二他... 908
26. ファントムを用いた甲状腺重量測定における基礎的検討津内 保彦他... 908
27. 甲状腺癌の骨転移診断における ^{201}Tl および骨シンチグラフィの有用性大塚 信昭他... 908
28. 異所性甲状腺の4例高橋 雅子他... 909

一般演題

1. Reflux Sympathetic Dystrophy (RSD) の 3 Phase Bone Scintigraphy による検討

影山 淳一 川瀬 良郎 余田みどり
津内 保彦 川崎 幸子 佐藤 功
大川 元臣 田邊 正忠 (香川医大・放)
桂川 正美 (同・放部)

RSD と診断された 19 例, 計 30 回の 3 Phase Bone Scintigram を, 受傷から検査までの期間, 治療前後での Scintigraphic Pattern の変化について検討した. RSD 早期ではすべての Image で患側の increased activity が見られる例が多く, 病期もしくは治療によって Angiographic Image のみ左右差の見られない Pattern に変化することが推定された. しかしながら, 今回は症例数が少なく病期もまちまちであり, また治療方法も異なっていたためこれら諸条件についてはさらに症例をかさね検討していく予定である.

2. 脊椎骨の放射線照射による影響——骨シンチグラフィによる検討——

○吉田 大輔 吉田 祥二 福本 光孝
西本 均 西岡 明人 猪俣 泰典
前田 知穂 (高知医大・放)
赤木 直樹 (同・放部)

脊椎を含む照射野で放射線治療がなされ, かつ骨シンチグラフィで経過観察をなし得た 79 症例の悪性腫瘍患者について照射総線量別にその経月的変化につき検討した. 方法は骨シンチグラム像をフィルムデジタイザーで

読み取り, ROI を測ることで治療前と比較し, 客観性を持たせた. 結果は総線量 10, 20, 30 Gy の小線量群と, 40, 50, 60, 70 Gy の大線量群に分けられ, 小線量群では集積低下の後に集積再増加がみられ, 大線量群では再増加が欠如する等いくつかの所見が得られた. また, 集積低下部位での骨転移の診断能の低下が示され, MRI 等の必要性が認められた.

3. 骨シンチグラフィにてドーナツ状集積を認めた Intraosseous meningioma の一例

山本 博道 (岡山労災病院・放)
津野田雅敏 渋谷 修 安井光太郎
赤木 史郎 清水 光春 小林かおり
平木 祥夫 (岡山大・放)

症例は 64 歳の男性, 偶然施行した骨シンチグラフィで左頭頂骨にドーナツ状の異常高集積を認めた. 単純写真では頭頂骨に約 2.5 cm 大の辺縁不鮮明な骨融解像を認め, X 線 CT では一部内板の破壊を伴った板間層を主体に増殖する腫瘤が疑われた. CECT では硬膜と思われる部位にもわずかに線状の造影を認め硬膜の病変も示唆された. 脳血管撮影では明らかな異常が指摘できず, 手術を施行した. 手術により硬膜病変を伴う広義の intraosseous meningioma と診断された. このタイプの髄膜腫は比較的稀であり, また骨シンチグラフィで興味ある像を呈していたため若干の文献的考察を加え, 報告した.